

田子町～三戸町

唐馬の碑(馬曆神社) 15

馬曆神社境内に建つ「唐馬の碑」は、外国産馬に関する貴重な史跡として県の文化財に指定されています。享保10年(1725)、八代将軍・徳川吉宗にオランダ人が献上したペルシャ産の馬「春砂(はるしゃ)」が、南部藩に下賜されました。藩は春砂を住谷野で放牧し、馬の体格を大型化するための種馬として改良を図るも、9歳で亡くなってしまいました。このため、寛保3年(1743)、元野馬別当の石井玉葉が唐馬「春砂」の追善のための碑を建立し、馬曆神社に祀っています。



に約1600本の桜が咲き誇る「県立城山公園」として整備され、県内外から訪れる人々の憩いの場となっています。三戸城跡として多くの遺跡が保存され、南部三郎光行を祀る糠部神社や、三戸城本丸の角櫓を復元した資料館「温故館」など、多くの見所があります。

龍川寺 16

龍川寺の山門は、三戸城の表門の1つといわれています。具体的にどの門であったかは定かではないものの、「糠部五郡小史」には、「盛岡城御移城に際し門柱並びに御襖等拝領」と記されています。門柱以外の桁などは比較的新しい様に見受けられ、「門柱だけ拝領」は事実であるようです。



この山門以外にも、「松風釜」「襖4枚」「衝立」「油揚鍋」を南部重直より賜ったとされ、油揚鍋以外は現存しています。

熊野神社(川守田館跡) 17

享保年間(1094～1096)の勧請と伝えられます。後に、川守田入道がこの地を領有し、この神社を祈願所として社殿の造営等に力を注いだされ、入道の子孫である川守田弥五兵衛は、南部家より社領下付の覚書を賜っています。



川守田館は、神社から北方の国道になっている部分と想定され、空堀が遺構として残されています。

法泉寺 18

法泉寺は南部家の菩提寺の1つで、境内には南部経直の墓碑が建立されています。経直は、南部家27代利直の長男でしたが庶腹であった為、当時支城であった福岡城の城主となりましたが、わずか16歳で死去したと伝えられています。又、法泉寺山門は三戸城搦手門を移築したとされる門で棟門形式の変形した唐破風屋根をもち三戸町指定有形文化財にしていされています。旧庫裏の建物も三戸城の御台所の一部を移築したものとされています。



三戸城跡(城山公園) 19

三戸城は、三戸南部氏により戦国時代それまで居城としていた聖壽寺館の消失に伴って、現在の三戸町中央部の独立した段丘に築城されました。南部氏の居城は後に、福岡城(二戸市)を経て盛岡へうつされますが、三戸城は御古城として城代や代官が置かれて、盛岡藩主により大切にされました。現在は、春

糠部神社 20

明治11年(1898)、旧南部藩士族を中心に三戸町など周辺地域からも有志を募り三戸城跡地に勧請されました。城山公園内にあり、藩祖南部三郎光行公をまつています。



境内には樹齢約800年の杉の老木(樹高22m、胸高幹周9.52m)と、樹齢約400年のサイカチの木があり、ともに三戸町指定天然記念物に指定されています。

関根の松 21

県の天然記念物で、昭和58年には日本名松百選にも選ばれています。この場所は南部藩御野馬別当一戸五右衛門の屋敷跡ですが、この松は慶長年間(1596～)に岩手県一戸村から三戸へ引越してきた五右衛門の祖先、一戸兵部綱定という人が藩主から賜った盆栽松だったといわれています。推定樹齢370年、樹高6m、枝張16m。明治14年の明治天皇御迎幸の際、北白川宮能久親王から「翠葉千年之緑、貞節古己の操」の御筆を賜った名木です。



佐瀧本店・別邸 22



佐瀧本店・別邸は、大正14年(1924)に酒類雑貨商の店舗および住居別棟として、建設されたもので、現在も店舗・住居として使用されています。本店は平成9年(1997)に、佐瀧別邸は平成12年(2000)に国の登録有形文化財となっています。また同時期に施工された門及び塀、旧店舗時代から受け継がれている文蔵庫、土蔵も国の登録有形文化財となっています。

青森県内で明治以来多くの洋風建築を手掛けた

堀江組によって設計、施工されたもので、家具などの設計も堀江組によるものです。本店は、県内最古の現存する鉄筋コンクリート造の店舗です。

悟真寺観音 23

糠部三十三観音の25番札所。悟真寺には観音堂の他に会津藩士の招魂碑、戦時中の防空壕に造られた洞窟観音があります。本尊の木造阿彌陀如来立像は県重宝に指定されており、平安時代末期に京都でつくられたものと考えられています。

三戸大神宮 24

町民に「神明さま」として親しまれている三戸大神宮は、以前は神明社、神明堂とよばれ、箸木山の八畳屋敷に鎮座していたといわれています。南部藩の祈願所として定められ、年とともに参拝者が増加したため、寛永6年(1629)に南部藩士藤枝宮内が自分の屋敷(毘沙門館)内であった現在の場所へ社殿を移しました。歴代領主である南部氏から武運長久の祈願所として崇敬されていました。



境内には商売の神様として信仰が厚い市神社や、腰掛けて心静かに祈念すると、願いが叶うという「思案の石」、江戸時代を中心に多くの絵馬が残されている「絵馬殿」、南部藩お抱え力士の墓も見つかるなど、三戸町のさまざまな歴史を伝える神社として注目を浴びています。

観福寺 24

観福時山門は旧三戸代官所の門が移築されたもので、総ケヤキ作り、薬医門形式です。



三戸城には、元和年間(1615～1623)は三戸城代が置かれていましたが、貞享年間(1684～1687)に城代が廃止され、三戸代官所がこれに代わってこの地域を支配するようになりました。記録によると、延享4年に代官所が新築されたとあるため、このときに旧代官所門がここへ移築されたのではないかと考えられています。本堂の木造十一面観世音菩薩坐像(県重宝)は南北朝時代の作と推定されています。

長栄寺 25



慶長2年(1597)開基。盛岡城築城と同時に移転した大泉寺跡に建てられ、境内には、五輪塔、正応碑(ともに県重宝)が残されています。

【檜山御前五輪塔】

南部信直の次女で、秋田英季の妻となり、元和6年(1620)に亡くなった檜山御前の墓所とされています。

【長栄寺正応碑】

正応2年という鎌倉時代の年号銘が刻まれています。県南地方唯一の鎌倉期の金石文です。その由来については不明ですが、笠塔婆のようなものと考えられています。長栄寺墓地に松山御前の五輪塔と並んでいます。